

Recherche 00138 トレンチコート仕様書

布帛用

パターンパーツ数 18

～付属品～

接着芯

バックル

留め具(ライナーの留め具はスナップ可)

サイズ		80	90	100	110	120	130	140	150
着丈		43.5	47.5	53.5	58.5	63.5	69.5	75.5	81.5
バスト		66.7	68.7	71.2	74.2	77.2	80.2	84.7	89.2
袖丈		42	45	49.5	54	57	61	66	71
用尺	表地	195	205	230	265	275	305	340	380
※110巾	ライナー	55	60	65	70	75	80	85	90

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転
売はご遠慮ください。

■ 用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。

■ 伸び止めテープ・接着芯貼りは省略している箇所があります。

■ わかりやすくする為、画像のサンプルは寸法や糸の色を変えてあります。全体のバランス等、実際のものとは異なりますのでご注意ください。

パターンには芯を貼る位置やステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

※以下の「裁断・接着芯」「ノッチ(切り仕付け)」は平行して作業します。

裁断・接着芯

地の目線を確認し、生地の方に注意しながら裁断します。

生地に合った接着芯を貼ります。

※全面に接着芯を貼るパーツは少し大きめに粗裁ちします。(接着芯を貼ると生地が縮む為、接着後に裁ち直します。)

粗裁ちしたパーツをパターン通りに裁断します。

ノッチ(合印)を入れます

※ ノッチ(合印)とは、縫い代に0.2 cm程度の切り込みを入れることです。

※ ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。

※ 各所縫い合わせの時はこのノッチを合わせます。

その他

ベルト巾を変える場合、ベルト通しの長さを調節する必要があります。

厚手の生地で作成する場合、ベルト通しを長くする必要があります。(浮かせ分が増える為。また、折り時に縫い代が足りなくなる為)

ベルト通し

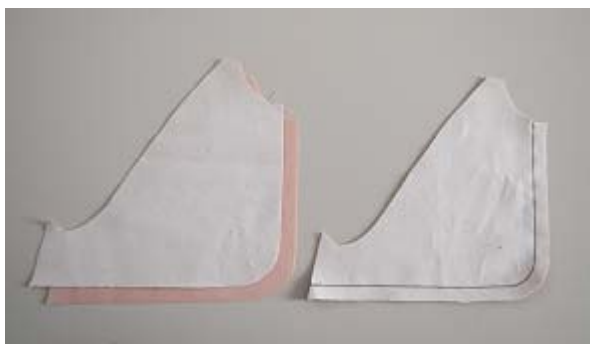
※ベルトの生地が厚い場合は長めに裁断します。(浮かせ分を増やす必要がある為。また折り時に縫い代が足りなくなる為。)

「ベルト通し」を出来上がりに折り、アイロンで押さえます。

ステッチをかけます。



胸ヨーク



「胸ヨーク」を中表に重ね、直線ミシンで縫います。(袖付け側は縫いません。)



カーブ部分の縫い代を5ミリにカットし、切り込みを入れます。



表に反し、アイロンで整え、ステッチをかけます。

背当て



「背当て」を中表に重ね、底辺を直線ミシンで縫います。(袖付け側は縫いません。)



縫い代をアイロンで折り、表に返し、ステッチをかけます。

エポーレット



「エポーレット」の長辺にアイロンをかけます。



「わ」の部分をアイロンで折ります。



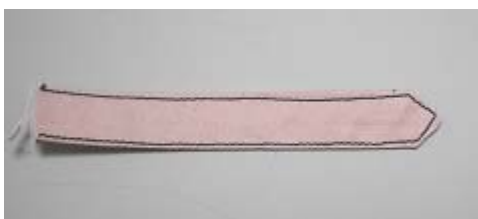
中表に重ね、先を一部縫います。



縫い代を切り落とします。



表に反し、目打ちやアイロンで整えます。

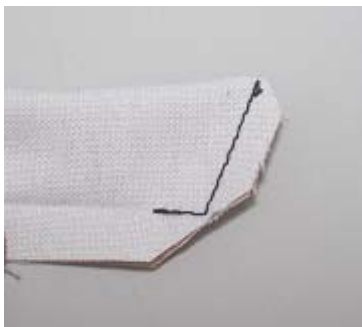


周囲にステッチをかけます。

ウエストベルト・袖口ベルト ※エポーレットと同様に

「ウエストベルト」の長辺にアイロンをかけます。

中表に重ね、ベルト先を一部縫います。



縫い代を切り落とします。

表に反し、目打ちやアイロンで整えます。

周囲にステッチをかけます。

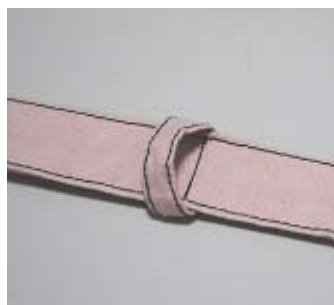


ベルト通しを輪にして縫い留めます。

※袖口ベルトにこのベルト通しはありませんので省略します。



ベルトに通し、縫い留めます。



ベルトをバックルに通し、端を一折りし、ステッチをかけます。



必要に応じてベルトホールを開けます。

前身頃

「箱ポケット」を作ります。

※箱ポケットの作り方 → <http://www.recherche.ne.jp/recherche.hako.pdf>



身頃(表側)の上に、胸ヨークを重ねます。



出来上がり線より縫い代側に仮留めします。

※脇の空ロックは後程かけます。

後身頃



後身頃 CB の内角に空ロックをかけます。
※メスはロックしておきます。

～内角の空ロックのかけ方～



角に切り込みを入れます。



角の手前で生地を折り畳み、真っ直ぐになるように縫い進めます。



CBを中表に重ね、プリーツ止まりまで縫い合わせます。

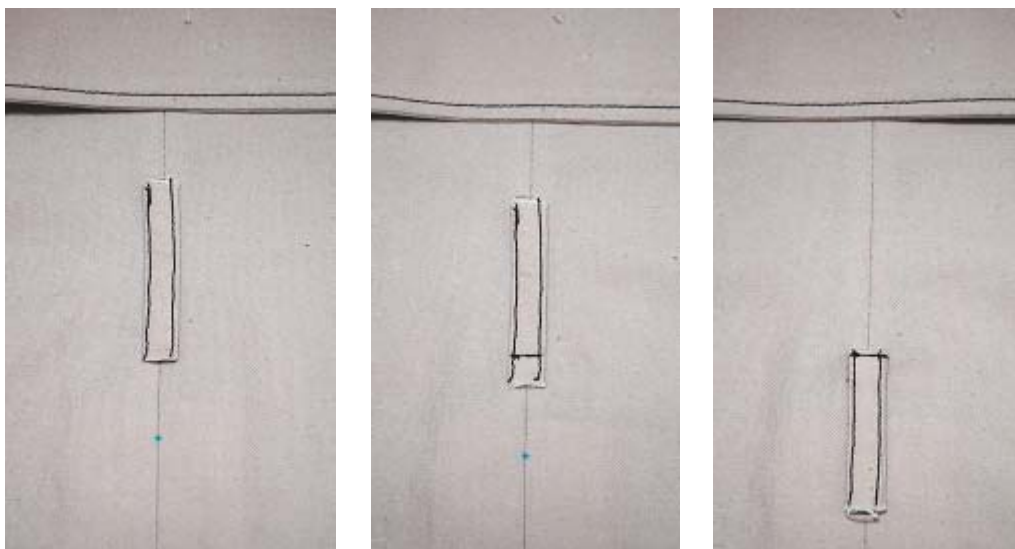


アイロンで縫い代を割ります。
アイロンでプリーツの形を作ります。(ステッチはかけません。)



後身頃(表側)に背当てを重ね、出来上がり線より縫い代側に仮留めします。

ベルト通しを上側のみ縫い留めます。



※脇の空ロックは後程かけます。

袖



袖を中表に折り、袖山側からダーツを縫います。

※縫い終わりは返し縫いをせずに糸を長めに残し結びます。



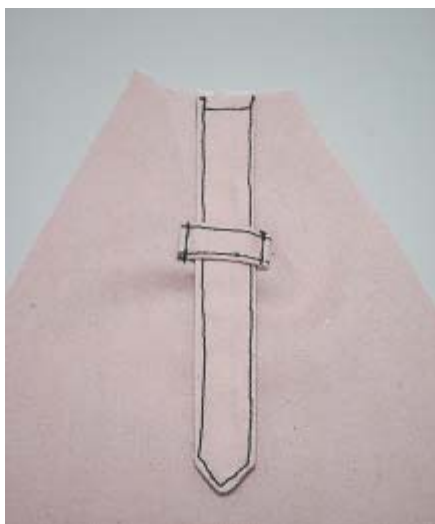
ダーツをアイロンで後身頃側に倒します。



ベルト通しを縫い留めます。(エポーレット用・袖口ベルト用)



※ベルトの厚みを考慮した膨らみが必要です。



エポーレットを袖の縫い代に仮留めします。(ベルト通しに通した状態で縫い留めるとずれません。)



袖口に、袖口見返しを中表に重ねます。



直線ミシンで縫い合わせ、縫い代に切り込みを入れます。



縫い代をアイロンで倒します。

※袖口の出来上がり線もアイロンで折っておきます。



アイロンで折った縫い代を広げ、袖下・袖口見返しの縫い代に空ロックをかけます。

※縫い代を切り揃える程度に切り落とししながらロックをかけます。



袖下を中表に重ね直線ミシンで縫い合わせます。



縫い代をアイロンで割ります。



見返しを出来上がり線で折り、袖口にステッチをかけます。



見返しを袖の縫い代に縫い留めます。(押さえが入らなかったり、縫い難い場合は手縫いで留めます。)

衿・台衿

「衿の裁断と返り分」はこちら → <http://www.recherche.ne.jp/recherche.eri.pdf>

裏衿の外周(台衿接ぎ部分以外)を生地の厚み分×2 カットします。

※接着芯を貼った方が表衿になります。



「衿」を中表に重ね直線ミシンで縫います。
※表衿と裏衿の差は均等に散らしながら、衿先が揃うように縫い合わせます。

縫い代に切り込みを入れ、角を切り落とします。



表に反し、アイロンで整え、外周にステッチをかけます。



返し分を保ったまま、縫い代側を仮留めします。



台衿を中表に重ね、端を直線ミシンで縫い合わせ、縫い代をアイロンで割ります。



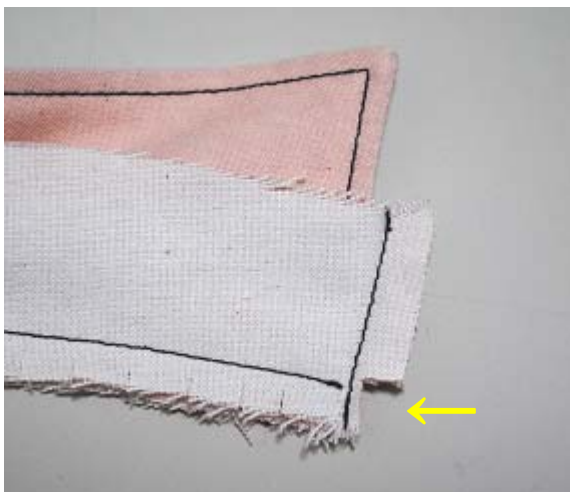
台衿の中に衿を入れ込みます。



出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

※この時、先程の返し分を縫い込まないように注意しながら縫います。

縫い代に切り込みを入れます。



角の縫い代を切り落とします。



台衿を表に反し、ステッチをかけます。



出来上がり線より縫い代側に仮留めします。

※台衿に「返り分」は必要ありません。

見返し



前見返しSLと、後見返しSLを中表に重ね、直線ミシンで縫い合わせます。



もう片方の SL も縫い合わせ、縫い代をアイロンで割ります。



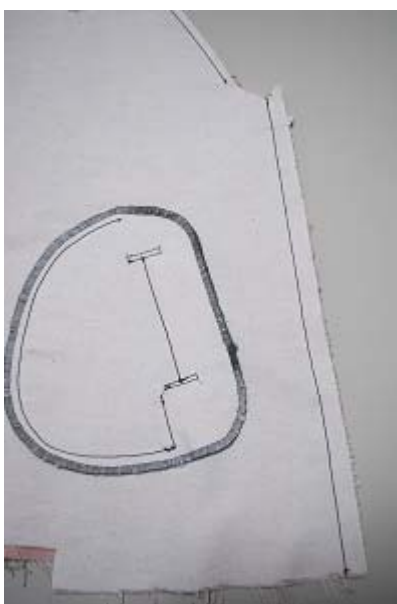
見返し端に空ロックをかけます。

ライナーをボタン留めする場合は、ボタンホールを開けます。

前・後身頃



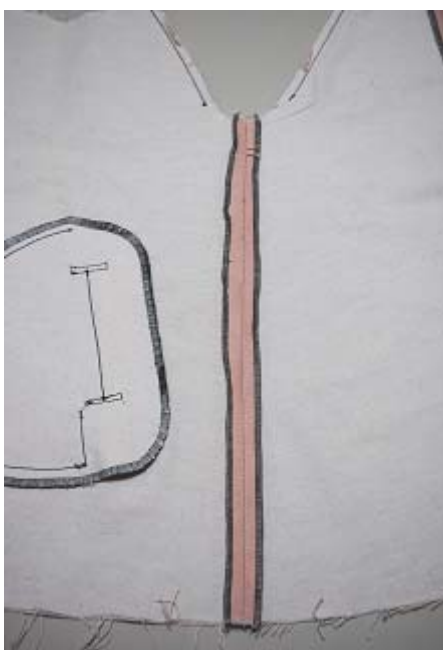
前身頃と後身頃を中表に重ねます。



脇の出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

縫い代をアイロンで割ります。

※胸ヨークの縫い代は後身頃側に倒します。

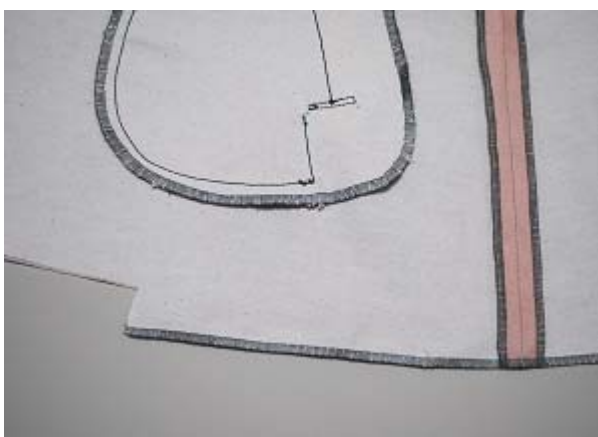


縫い代に空ロックをかけます。

※胸ヨークの縫い代は後身頃と一緒にかけます。

身頃の両脇にベルト通しを縫い留めます。

※CBのベルト通しはそのままにしておきます。



裾に空ロックをかけます。

身頃・袖・台衿・見返し



身頃と、袖を中表に重ね、まち針で留めます。



出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

縫い代にロックをかけます。

アイロンで縫い代を身頃側に倒します。



身頃と、見返しを中表に重ねます。

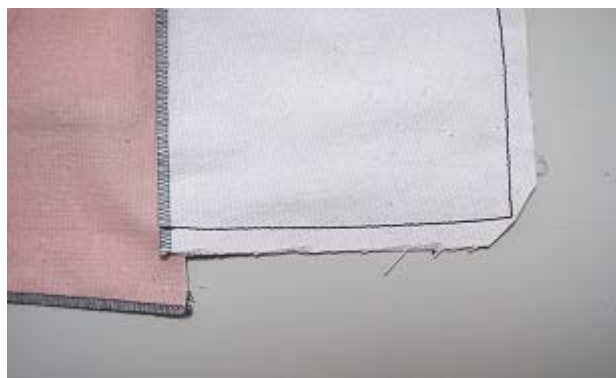


台衿止まりから裾まで出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

～台衿止まり周辺～



～裾周辺～



縫い代に切り込みを入れ、角を切り落とします。



※表衿が上になっています。



身頃と見返しの間に、台衿(衿)を挟み込みます。



台衿がずれないように、仮留めします。



※NP、CB も仮留め、まち針、しつけ等でずれないようにします。

※しつけ等の後、見返しをめくり、衿や胸パーツが正しくしつけされているか確認します。



台衿止まり～反対側の台衿止まりまで、直線ミシンで縫い合わせます。

※先程の縫い目と1センチ重ねます。

縫い代に切り込みを入れます。



見返しを表に反し、アイロンで整えます。

裾～CB～裾も出来上がり線をアイロンで折ります。

台衿の下方のステッチを入れます。



表側を上にし、胸ヨーク止まりのあたりからステッチをかけます。

※前・後身頃の裾を通り、反対側の胸ヨーク止まりまで縫い進めます。

～裾側～

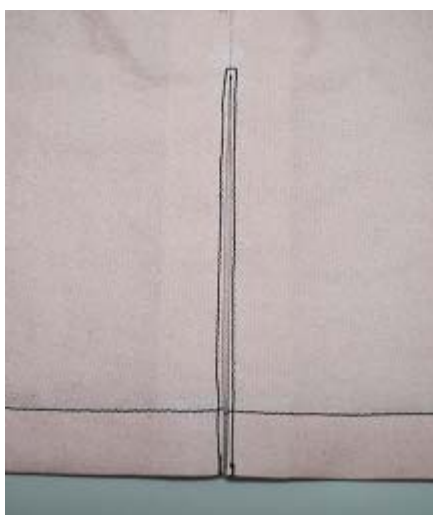




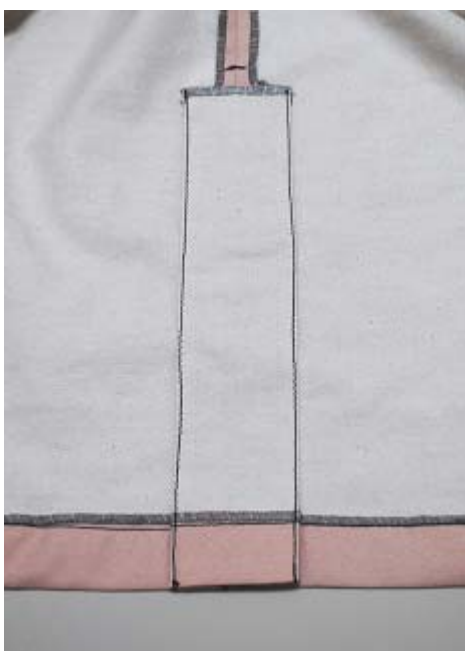
～裾側の裏～



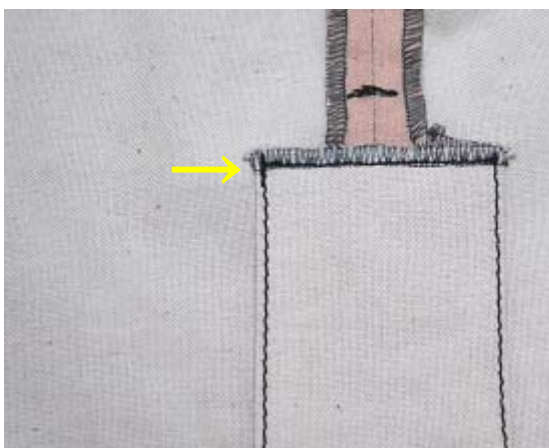
台衿止まり～CB～反対の台衿止まりまでを直線ミシンで縫います。
※しつけ等でずれないように注意します。



プリーツの表側にコの字にステッチをかけます。
※アイロンのみで仕上げる場合はステッチを省略し、
カンヌキ止めします。
※押さえが入らない場所は手縫いします。



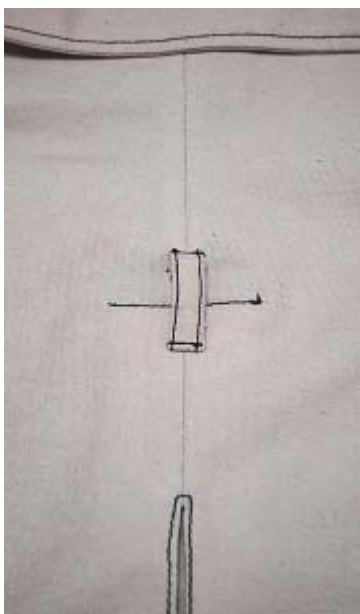
プリーツの裏側の両端にステッチをかけます。



プリーツ上部に押さえステッチをかけます。



～表側～



ベルト通しの下側を縫い留めます。

留め具

必要な箇所にボタンホールを開け、ボタンを縫い留めます。

ライナー

前・後身頃の SL と脇に空ロックをかけます。

SL を中表に重ね、出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

縫い代をアイロンで割ります。

身頃端をパイピング始末します。

AH をパイピング始末します。

ボタンを縫い留めます。

----- 完成 -----